

「Akita ふるさと活力人養成セミナー」の概要
Training Seminar for Fostering of Coordinators who are Revitalizing
Akita Hometown Communities

熊谷 嘉隆*
KUMAGAI Yoshitaka*

1. はじめに

秋田県内の農山村地域における活性化事業は従来、道路、通信、下水道、各種福利厚生および交流施設整備等に見られるハード事業を基軸として進められてきたが、それら地域における農林業の衰退や過疎化に歯止めはかからず、新たな活性化戦略が望まれている。一方で、日本全国の農山村地域に於いても地域活性化戦略として地場特産品開発、各種イベントの開催、産直システムの構築、そして都市・農村交流の推進などのソフト事業の展開がみられる。各地域に於けるこうした施策が推進される過程で活性化戦略の事例も蓄積されつつあり、研究者レベルでも成果を上げる地域やそうでない地域の要因分析について、ある程度の認識が共有されつつある。この要因分析の中で浮かび上がってきたのは地域の活性化を推進する「担い手」の存在とその育成が極めて重要であるという点である。本セミナーはこのような認識のもと、公立大学法人国際教養大学・地域環境研究センターと秋田県庁農山村振興課が平成17年度より始めたものである。

2. 秋田県内農山村の可能性と問題点

秋田県内の農山村には豊かな自然環境と伝統文化、そして食に代表される生活文化といった多様な資源が存在する。杉やブナを主とする森林資源、日本の原風景としての落ち着いた農山村景観、豊富な温泉資源などは価値の高い自然資源である。また、ナマハゲ・マタギ・かまくら・根子番楽（国の無形重要文化財）、各地域に継承される民話・民謡などに見られる伝統文化や、山菜料理とその保存法・漬物作り・酒づくり、各種道具の加工技術やその修復作業に見られる生活文化等、県内に於ける農山村の多面的価値は国内外でもっと認知されるべきであろう。そして、これらの多様な地域資源は安全で安心な食の生産販売、都市農村交流や学童向けの総合学習、民俗学研究などの推進による地域活性を図るうえで高い可能性を有している。しかし、問題はこれら豊かな自然、伝統、生活資源を効果的・持続的に運用し、外に向けて発信する能力を有する人材が欠如している点である。よく指摘されるように上記の地域資源のもつ価値は往々にして本県出身ではない「よそ者」によって認識されることが多く、地元の人々の認識度は低いといわざるを得ない。一方で、これら資源を活用した地域住民または行政主導による多様な活動が行われている地域も少なくない。課題はそれらの活動が分散的であり、各活動が地域単位で有機的に連携することなく行われている点であろう。つまり地域内の多様な活動が地域の活性化には必ずしも結びついていない。

食糧生産の場としての農山村の役割が否応なしに転換を迫られている現在、農山村の多面的価値を客観的に認識し、それら資源を副収入・雇用確保、誇り・愛郷心の育成、伝統文化の継承、環境教育といった切り口で、持続的に運用できる担い手の輩出・育成は農山村の存続を左右する極めて重要な施策であるとの認識を大学・地元行政が共有したことが本セミナー開講の起因である。

3. 「Akita ふるさと活力人養成セミナー」が目指すもの

秋田県の農産物をしっかりしたマーケティング戦略のもとに販売促進しつつ収入・雇用確保を図れる人材。農山村に継承される文化・生活資源の価値を再発掘しその価値を認識しつつ地域を魅力ある訪問地として情報発信していくことができる人材。自らが住む地域の将来を長期的視点から考

*公立大学法人 国際教養大学、*Akita International University

キーワード：担い手育成，コーディネーター，地域内資源の有機的連携，学官共同

慮し、地域内外の人々とネットワークを構築できる人材。農山村活性化のための各種支援事業に関する情報収集力に優れ、そしてそれらを獲得するためのスキルを有する担い手を育成することを目的として本セミナーは平成17年度より2年間を一期として開講された。第1期生は各自治体から推薦された24名で、職種は自治体・団体職員、NPO法人スタッフ、大学職員、料亭経営者、自然体験ツアーガイドなど多岐にわたった。当初は大学教員による講義に戸惑いを覚えながらも回を重ねるたびに受講生、大学教員、行政職員の間一体感が生まれ、毎回真剣ながらも楽しくセミナーは進んだ。セミナーでは地域活性に最低限必要と思われる基礎科目とそれらを実践面で活用する為の応用科目を講義・ワークショップ形式で学習したり、受講生によるコンペ形式のイベント企画を策定したり、そして修了プロジェクトとして受講生がセミナー修了後にそれぞれの地域で実施したい活動プロジェクトの企画・立案といったカリキュラムをもとに進めた(図1参照)。現在、第1期生はそれぞれの地域・職場でセミナーで学習したこと、そしてセミナー受講生間で構築したネットワークを活用しながら自ら住む地域の活性化に取り組んでいる。ちなみに平成19年度から第2期生23人が新たに受講生として参加し、現在にいたっている。

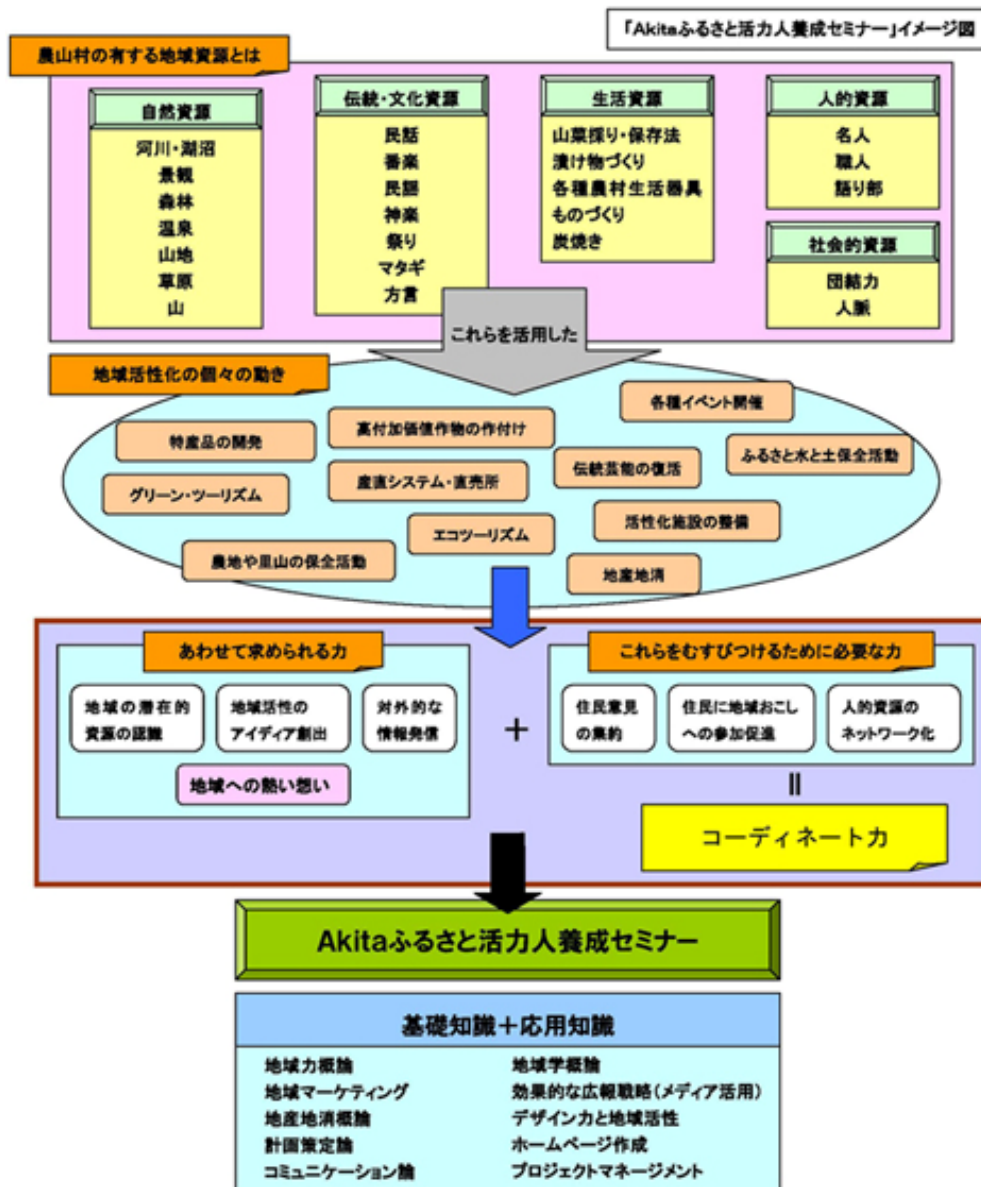


図1 「Akitaふるさと活力人養成セミナー」の概念図